

論文以外のコンテンツ

雑誌名	東洋大学社会福祉研究
号	3
発行年	2010-08
URL	http://id.nii.ac.jp/1060/00005153/



東 洋 大 学

社会福祉研究 No. 3

STUDIES ON SOCIAL WELFARE, TOYO UNIVERSITY

2010年8月

ソーシャルワーク実践におけるジレンマ： 現場で直面する矛盾・葛藤を、どう読み解くか

第5回大会基調講演／天野マキ（2009年8月）

シンポジウムの記録

本多勇
野村聡
内田宏明
討論

薬害・公害のない、平和で健康な福祉社会を築くために
東洋大学最終講義／片平冽彦（2010年3月20日）

●学位取得論文要旨

柳愛貞
小椋佑紀
宮嶋淳

2009年度活動報告

東洋大学社会福祉学会会則

「東洋大学社会福祉研究」投稿規定／執筆要領



東洋大学社会福祉学会

The Society for the Study of Social Welfare, Toyo University

【巻頭言】

東洋大学社会福祉学会

平成22年度会長 小林 良二

『東洋大学社会福祉学社研究』第3号をおとどけいたします。

当学会は、東洋大学大学院社会学研究科および福祉社会デザイン研究科の社会福祉学専攻・福祉社会システム専攻の在学生と卒業生、現職および先輩の教員や関係者の方々を会員とし、会員相互の情報交換と知的交流の場を提供するとともに、大学関係者だけでなく社会福祉の現場で活躍される方々にも広い意味での研究発表の場として活用していただくことを趣旨として設立されています。

昨年度につきましては、次のようなことがらを報告させていただきます。

第1に、大学の教員については、片平冽彦先生が定年で退職されるとともに、高橋重宏先生が日本社会事業大学に学長として転出されました。このため、一昨年の天野マキ先生のご退職も含めて、教員の大幅な変動が起きています。片平、高橋両先生には、非常勤講師として当大学で教鞭をとっていただいておりますが、いずれにしても、大きな世代交代の時期にさしかかっており、今後の大学院の新しい方向性を本格的に検討する時期にきています。

第2に、博士学位論文については、昨年度も宮嶋淳氏、小椋佑紀氏、柳愛貞氏の3人が提出され、博士の学位を授与されました。ここ数年間、一定数の博士学位の授与が行われており、喜ばしいことでありますし、学位を取得された方々には、心からのお祝いを申し上げたいと思います。

第3に、社会福祉学専攻と東洋大学福祉社会開発研究センターとの共催のもとで、韓国大邱市にある大邱大学校との共同セミナーが毎年開催され、1年ごとの相互訪問による研究交流が行われています。これらの積み重ねを土台として、韓国との研究・教育面での交流が進展してきていることも大切な成果であるといえます。

第4に、大学院の現状をみると、相変わらず学部からの進学者よりも実務に携わりながら大学院に進学される方々が増えており、全体として、研究を志しておられる実務者の方々に、これからどのような研究・教育のシステムを構築していったらよいかについての検討が急務になっています。

なお、残念ながら、本年度の投稿論文は1本だけであり、これについては厳正な審査をしていただいた結果、不採用とさせていただきました。本会の趣旨をご理解いただき、在学生・卒業生を含めて、会員諸氏のより積極的な論文の投稿を期待したいと思います。

最後に、本学会の運営全般にわたり、在学生・卒業生・現職、先輩の教員各位からさまざまなご支援を快くいただきましたことに対して心からお礼申し上げ、会員各位のより一層のご活躍、ご健勝を心からお祈り申し上げます。

平成22年6月30日

東洋大学社会福祉研究 第3号

CONTENTS

【巻頭言】

東洋大学社会福祉学会 平成22年度会長 小林良二	1
--------------------------	---

CONTENTS	2
----------	---

ソーシャルワーク実践におけるジレンマ：
現場で直面する矛盾・葛藤を、どう読み解くか

第5回大会基調講演 (2009年8月)

●天野マキ (東洋大学名誉教授)	3
------------------	---

シンポジウムの記録	14
-----------	----

●本多勇 (介護老人保健施設太郎・相談室長 社会福祉学専攻後期課程満期退学)

●野村聡 (柏市役所、福祉社会システム専攻修了)

●内田宏明 (飯田女子短期大学・准教授 社会福祉学専攻後期課程在籍)

討論

薬害・公害のない、平和で健康な福祉社会を築くために

東洋大学最終講義／片平冽彦 (2010年3月20日)	33
----------------------------	----

●学位取得論文要旨

柳愛貞

「日本と韓国における一人暮らし高齢者へのサポート取り組みに関する比較研究」	55
---------------------------------------	----

小椋佑紀「就学援助制度の実施体制」	59
-------------------	----

宮嶋淳「DI者の権利擁護」	65
---------------	----

2009年度活動報告	71
------------	----

東洋大学社会福祉学会会則	72
--------------	----

「東洋大学社会福祉研究」投稿規定／執筆要領	73
-----------------------	----

編集後記	73
------	----

東洋大学社会福祉学会活動報告

【2009（平成21）年度】

8月2日（日） 第5回大会開催

プログラムは、下記の通りであった。

10：30～10：35 東洋大学社会福祉学会長挨拶

10：35～12：05

（以下3名の大学院生の報告が行われた。）

萩野 剛史・金子 恵美・松宮 透高

13：00～13：30 総会

13：30～14：30 基調講演

天野マキ（東洋大学名誉教授）

「現代の貧困問題と社会福祉政策の視角

—『住まいの貧困』の現代的様相と社会的施策の検討を通して—」

14：40～17：00 シンポジウム

「ソーシャルワーク実践におけるジレンマ

—現場で直面する矛盾・葛藤を、どう読み解くか—」

本多 勇（介護老人保健施設太郎・相談室長 社会福祉学専攻後期課程満期退学）

野村 聡（柏市役所、福祉社会システム専攻修了）

内田 宏明（飯田女子短期大学・准教授、社会福祉学専攻後期課程在学）

コーディネーター：高山直樹（東洋大学社会学部・教授）

●審議事項

1. 2009年度の事業計画（案）と予算（案）が審議され、承認された。

2. 顧問の追加について

天野マキ（東洋大学名誉教授）会員を本学会の顧問にすることについて、承認された。

3. 役員の改選について

〔会則：第10条〕に基づいて役員改選を行った。

理事（研究大会担当）○加山 弾（社会学部准教授）

⇒ 留任

理事（機関誌担当）○須田木綿子（社会学部教授）

⇒ 留任

理事（財務・学会ニュース担当）

○川原 恵子（社会学部専任講師）

⇒（財務担当）留任

理事（同窓会担当）○宇留野 光子

（社会福祉法人芳香会 理事長）

⇒ 留任

理事（学会ニュース担当）

○後藤 広史（社会学部助教）

【新任】

理事（同窓会担当）○相馬 大祐

（2004年卒 大学院博士後期課程3年）

【新任】

○野村 幸代

（1994年卒 社会福祉法人芳香会 職員）

【新任】

4. 会則に基づく会費未納者（25名）の扱いについて、事務局提案が承認された。

●報告事項

1. 会員数について

会員数 179名（卒業生会員：109名、院生会員：53名、教員会員：17名）〔2009年8月1日 現在〕

2. 2008年度の事業報告・決算報告がなされた。

3. 機関誌『東洋大学社会福祉研究』No.2 2009年8月31日発刊された。

4. 学会ニュース発行（No.7 2009年7月13日、No.8 2010年3月3日、No.9 2010年6月12日）

（事務局長 金子光一）

東洋大学社会福祉学会／会 則

第1章 総 則

(名称)

第1条 本会は東洋大学社会福祉学会と称する。

(事務局)

第2条 本会の事務局は、東洋大学白山キャンパスに置く。(東京都文京区白山5-28-20)

第2章 目 的

(目的)

第3条 本会は、社会福祉に関する学術研究と実践活動の成果の発表、及び会員相互の交流を目的とする。

(事業)

第4条 本会は、その目的を達成するために次の事業を行う。

1. 機関誌・通信の発行
2. 年次学術研究大会、研究会、講演会などの開催
3. その他、理事会が適当と認めた事業

第3章 会 員

(会員)

第5条 本会は、次の会員をもって組織する。

1. 通常会員

東洋大学教員、東洋大学に勤務された教員(専任・非常勤)

東洋大学の在籍生、卒業生

東洋大学大学院の在籍生、修了生

本会の目的に賛同する者

(入退会の手続き)

第6条 入会を希望する者は、所定の会費を添え、申込書を本会事務局に提出する。また、退会を希望する者は、本会事務局に通告して退会するものとする。

(会費)

第7条 会員は年会費(5,000円、学部在学生会は2,500円)を納めなければならない。

年会費の額は総会で決定する。既納の会費は返済しない。

(会員の権利)

第8条 会費を納入した会員は、以下の権利を有する。

1. 通信物等の受理
 2. 機関誌の受理(無料)
 3. 機関誌への投稿
 4. 研究会・講演会など各種の会合への参加
 5. 前項4における研究成果等の発表
- 二、会費を3年以上滞納した者は、理事会の議を経て、その者の会員の権利を剥奪することができる。

第4章 機 関

(役員)

第9条 会の事業を遂行するために次の役員を置く。

1. 会長1名、事務局長1名、理事若干名、顧問若干名
2. 会計監事2名

(役員の選出)

第10条

1. 会長：理事の中から互選する。
2. 事務局長：顧問及び会長が、会務の執行にかかわる事務責任者として事務局長を選出し、総会の議を経て委嘱する。
3. 理事：総会において会員の中から互選する。
・研究大会担当・機関誌担当・財務担当・同窓会担当
なお、必要に応じてその他の理事を、総会において互選することができる。
4. 顧問：本会発展に貢献のあった者の中から、理事会の議を経て選出する。
5. 会計監事：総会において会員の中から互選する。

(役員の任期)

第11条 役員の任期は2年とする。

但し、再任を妨げない。補欠の役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(理事会)

第12条 理事会は、会長、事務局長、理事によって組織される。

二、理事会は、理事の過半数の出席をもって成立し、議事は出席理事の過半数をもって決する。

(総会)

第13条 会長は、毎年1回会員の通常総会を招集しなければならない。会長が必要と認めるとき又は会員の3分の1以上の請求があるときは、臨時総会を開く。なお、総会の議事は、出席会員の過半数をもって決する。

第5章 会 計

(経費)

第14条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもってあてる。

(予算及び決算)

第15条 本会の予算及び決算は、理事会の議決を経て、総会の承認を得てこれを決定する。

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、3月31日に終わるものとする。

第6章 規約の変更及び解散

(会則の改正)

第17条 本会会則を変更し、又は本会を解散するには、会員の3分の1以上又は理事の過半数の提案により、総会出席会員の3分の2以上の同意を得なくてはならない。

付 則

1. 本会会則は、2005年11月27日から施行する。

「東洋大学社会福祉研究」投稿規程

(2008年6月30日制定)

1. 投稿資格

投稿者は、原則として東洋大学社会福祉学会会員とする。ただし、以下の場合には、編集委員会の判断によって投稿を受理できる。

1) 編集委員会において特別に依頼する場合。

2. 原稿の種類

1) 原稿の種類は、論文、研究ノート、翻訳、資料とする。

2) 論文は、他に未発表のものに限る。投稿論文と内容が重複・類似した既存発表論文または他誌に投稿中の論文がある場合は、投稿者は、必ず当該論文のコピーを添付することとする。編集委員会で受理の諾否を決定する。

3) 翻訳・目録・資料で単独の原稿をなすものには、解題・解説を付けることが必要である。

3. 原稿の枚数

1) 原稿は、原則として、400字詰め原稿用紙換算30枚(12000字、図表を含む)以内とする。

4. 原稿の採否

1) 原稿の採否、ならびに論文の修正の指示は、選定されたレフェリーの査読結果に基づき、編集委員会が決定する。

5. 投稿形式

1) 投稿は、電子媒体（フロッピー・ディスク等）で行い、プリントアウトしたハードコピーを添付する。

6. 要旨・キーワード

1) 原則として、400字程度の要旨と、5個以内のキーワードをつける。

7. 執筆要領・執筆要領

1) 紀要編集委員会においてその内容を検討し決定する。

8. 自由投稿論文の原稿は、掲載の可否にかかわらず返却しない。

「東洋大学社会福祉研究」執筆要領

(2008年6月30日制定)

1. 要旨

1) 要旨は、できあがり1頁以内とする。

2) 5以内のキーワードをつける。

2. ワープロ入力上の注意

1) 原稿は、ワープロ作成によるものを原則として（A4版、横書き）1ページ全角40字×40行で印字する（空白部分は、上記分量に含まない）。ただし、英数字は原則として半角とする。

2) 拡大文字・特殊文字・文字飾り・罫線・制御記号なども、プリントアウトした原稿で指示する。

3) 改行以外の個所は、続けて入力すること。

3. 図表

1) 図表は本文中に入力せず、本文の後ろに入力するか、あるいは別のファイルに保存する。図表の挿入位置はプリントアウトした原稿に指示する。

2) 図表は、A4版で、例えば、1/4ページの場合、400字、1/2ページの場合、800字として換算する。

3) 図表には、通し番号（図表1、図表2）でタイトルをつける。その場合、1図表ごとに別紙（別ファイル）に作成し、本文中に挿入箇所を指定する。図表が、出版物からの引用の場合は、出典を明記し、必要に応じて、著作権者の許可を得なくてはならない。

4. 注

1) 本文中の該当箇所に、右肩上付きで、1)、2)、3)、...と順に示し、注自体は本文の後に一括して記載する。

5. 参考文献

1) 注の後に一括して記載する（著者名のアルファベット順）。文献挙示の方法については、「社会福祉学」投稿規程に準ずるものとする。

6. 校正

1) 著者構成は初稿のみとし、誤字、誤植、脱字の訂正以外は、原則として認めない。

◆ 編集後記 ◆

不安定な社会状況の中、若手研究者の境遇も厳しさを増しています。それでも、自分の研究の世界では主体性を存分に発揮できます。研究でストレスを発散しましょう。この学会誌は、毎年同じ時期に発刊されます。したがって、投稿論文の締め切りも、毎年ほぼ同じ時期に設定されています。早めに準備を整えて、ふるって投稿してください。

(Y. S.)

「東洋大学社会福祉研究」編集委員会

東洋大学社会福祉研究 第3号

2010年7月31日発行

編集／発行：東洋大学社会福祉学会事務局

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

TEL 03(3945)7439／FAX 03(3945)7626

制作／印刷 株式会社 ワコー

